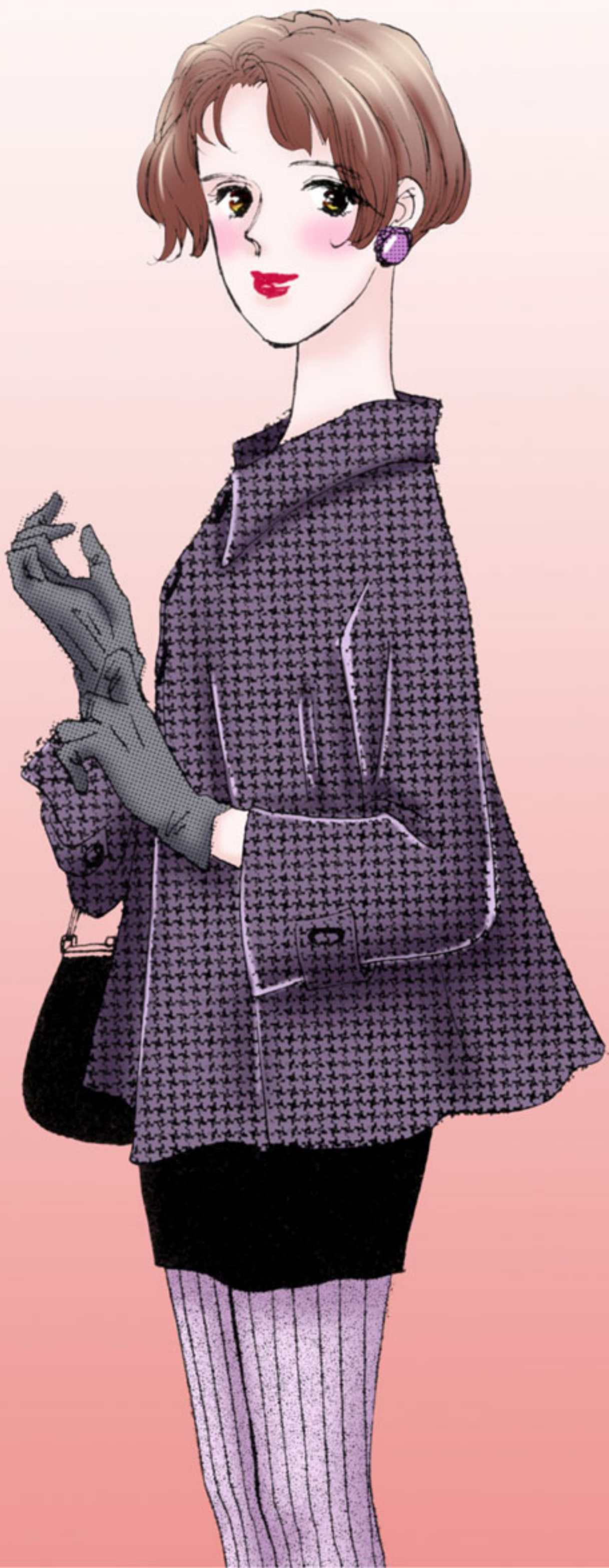


# リトルタリ

花田祐実

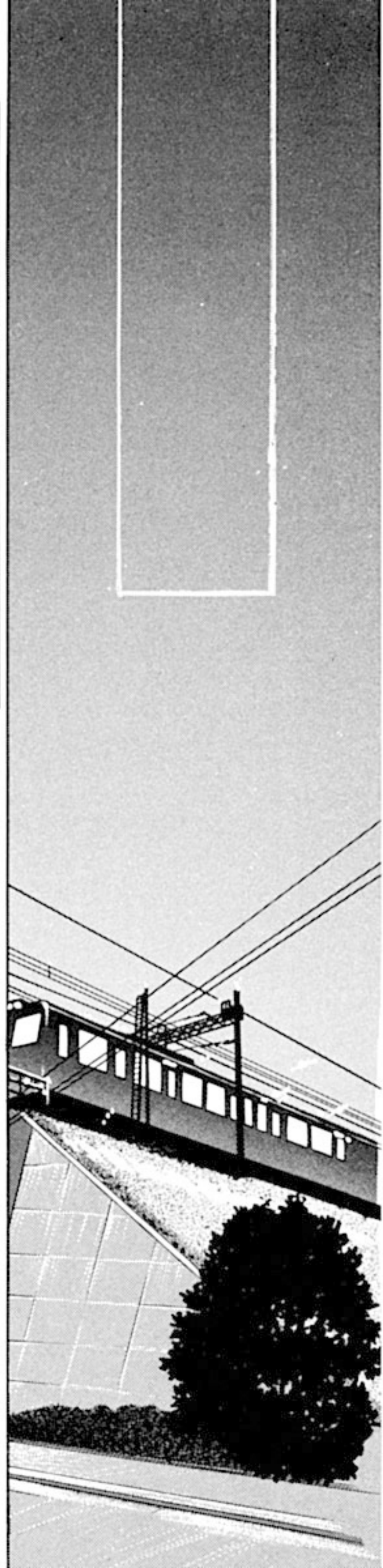
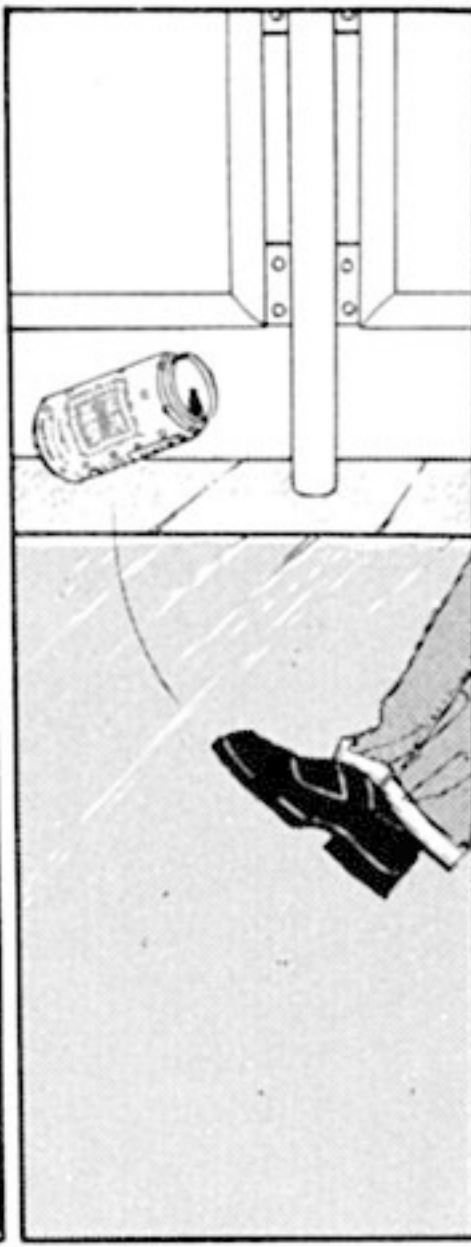
HANADA YUMI





「じゃあ水曜から  
お願いしよう」

めさつてから



あの人とおんなじお店で働ける



やったあ



うわあ







.....  
ちっちえーな

こんなの働かせて  
いいのかよ



どきどき

彼女

あたらしいバイトの子



ちがくないみたいだけど



こんな小ちゃくて  
かわいい子が



ガーン

ガーン

だいたい健みたいなの  
残忍なやつに

ほら違うってよ  
やめなさいよ 莊野  
からかうの



夏谷さんと一緒に  
働きたいわけさ 彼女は

ちっ...違...

ガーン...



まったく 莊野くんも  
あんなことばかり  
さとして

デリカシーないったら

.....

——ほんとに  
夏谷くんのが  
好きなの？

すっ……好きとか  
そういうんじゃない……

ちょっと憧れてた  
だけで

お話しできたらなって

あーわかる  
憧れね——

あたしもあったわよ  
18、9の頃

なつかしいなあ

でもちょっと  
相手が悪かったねえ

あんなのに憧れちゃだめよ

健はだめ  
女の子に優しくないの

サメサメ

本当に

私には優しくもない一日だった  
いきなりばれてしまうなんて



名前も知らなかった  
憧れのあの人は

「ちつちえーな」とか  
「変わってんな」とか

そんな言葉しか  
くれなかつたのだけど



でも たつたそれだけで



私のなかで あの人 が現実 になつた





